

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 事業 委託 補助用 )

I 基本事項

整理番号 1248

事業名	幼稚園ウィーク活動事業		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	教育部	学校教育課		款	教育費・10款
電話	0799 - 37 - 3018			項	幼稚園費・4項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務			目	幼稚園費・1目
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	法的根拠 (法令、条例、要綱等)			
	まちづくりの目標	人づくり_知恵あふれ_郷土愛が満ちるまちづくり_			
	施策目標	一人ひとりが明日を拓くリーダー【教育】 子ども達や市民が、南あわじ市の未来を切り拓くための、多様な能力を身につける機会を提供する			
該当する事業について「 」を選択		施策的	業務委託	負担金補助	

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	対象(誰を・どのような状況の人に)	地域一般住民		対象人数(人)	400
	目的	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 全国幼稚園ウィークは、全国国公立幼稚園長会が子どもたちの健やかな成長のため、 幼児教育の重要性を社会に投げかけると共に、幼稚園教育活動・教育内容を地域に発信 するため全国規模で展開するキャンペーンです。			
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) ・親子遊び 講師先生の主導により親子のふれあいを深め、幼児期の望ましい親子 関係の構築。 ・造形展 園教育の一端を紹介し、園児の素敵な感性や園生活と触れ合う場作り。 ・各園での園開放 未就園児親子の受け入れ・自由参観等の実施により地域の方の参 画を得ての教育推進。 ・ビデオ研修 保護者・職員・未就園児保護者が、A君の3年間の幼稚園生活を通し 幼児期の望ましい教育のあり方を学びあう。			
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) ・県においては平成16年度より実施。 当市においても17年度、幼稚園ウィークinせいだんとして、217名(園児親子・ 未就園児親子・小学生)の参加者を得て親子遊びを実施、盛会裏に終わる。 ・18年度より、予算化し、現在に至る。			
	事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ( )		<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
	合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input checked="" type="checkbox"/> 新市から			

## Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

	指標名	事業回数	指標単位			
			回			
「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標説明 (指標算出方法等)	親子遊び・造形展・幼稚園解放・研修活動				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	-	4	4	4	
	実績値	-	4	4		
	達成度 (%)	-	100.0	100.0	-	
	目標値設定の考え方	参加しやすい時期及び内容等を顧慮し開催				
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	幼稚園保護者・未就園児保護者・地域住民	指標単位 400人			
	指標説明 (指標算出方法等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子遊び 234名</li> <li>・造形展 165名</li> <li>・園開放 68名</li> <li>・研修活動 100名</li> </ul>				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	-	400	500	500	
	実績値	-	567			
	達成度 (%)	-	141.8	-	-	
目標値設定の考え方	幼稚園教育等について地域の方々に発信することが目的であり、より多くの参加者を得ることを目標とする					
資源配分 (インプット)	直接事業費 (千円)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	報償費(講師謝礼金)		-	50	50	20
	需用費(消耗品費)		-	69	30	30
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]		0	119	80	50
	人件費(正規職員)[B] (千円)		0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)		30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)					
	事業量2(事業に要した人数)					
	年間経費([A]+[B])		0	119	80	50
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)		0.0	0.3	0.2	0.1	
受益者人数(567)1人当り経費(千円)		0.0	0.2	0.1	0.1	
経費に関する補足説明						

## IV Check (事業の自己評価・一次評価)

達成度	活動結果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)
		%	-	100.0	100.0	-	
<p>(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 当該事業の実施状況から鑑み、概ね達成されているものとする。</p>							4
有効性	成果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)
	成果向上率	%	-	141.8	-	-	
		%	-	#VALUE!	-	-	
<p>(事業実施による目的に対する有効性分析、問題点・課題などを記入。) 幼稚園保護者は比較的積極的に参加してくれるが、未就園児の保護者、一般住民への参加呼びかけを充実し、幼稚園教育内容の普及に努めたい。</p>							4
効率性	活動実績1単位当り経費	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)
		千円	#VALUE!	29.8	20.0	-	
	効率性増減率	%	-	#VALUE!	32.8	-	
<p>(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 親子遊びでは子どもたちの輝く瞳・はじける保護者の笑顔がたくさん見られた。造形展では、「小さい子どもたちの自由でのびのびした作品はこころが癒されます。」このような感想をたくさんいただき、大勢の方に評価を受けた。効率性といわれても非常に難しいですが参加者から暖かいメッセージを得たことは評価されて良いと考える。</p>							4
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低					自己評価 (5点評価)
	<p>(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 幼児教育の必要性・家庭教育の重要性が見直されている現在にあって、保護者と地域と園が一体となって、みんなで子育てが出来るシステム作りをスタートするために、この事業の充実が望まれる。</p>						
総合評価	自己評価をふまえた現状分析						
	<p>多様に变化する価値観や、安易にメディアに流される親が増加する中であって、手作りの温かさや豊かな感性を育てるために大切な事柄など、具体的に考えたり、伝えることが急務であるとする。子育てを放棄せず、親として子どもの成長を楽しむことが出来るための支援が必要であるとする。これからも幼児期の重要性和幼稚園教育の大切さを当事業の中で啓蒙していきたい。</p>			<p>評価グラフ</p>			

## V Action&amp;Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input checked="" type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input checked="" type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	幼児教育の必要性・家庭教育の重要性が見直されている現在にあって、保護者と地域と園が一体となって、みんなで子育てが出来るシステム作り行う必要があり、経費節減をしつつ事業の充実が望まれる。	同左
(現状維持以外の改善方法)	経費節減に努めつつ継続して事業を実施していく。	同左
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面 事業は継続しつつ予算節減となる。	コスト面 同左
(現状維持の場合も記入)	仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)	